

コンテキスト情報を用いたテキスト入力システムの検証

鈴木 孝宏* 美馬 義亮† 角 康之

概要. Twitter を利用して視聴者とコミュニケーションを図るテレビ番組やラジオ番組が増えている。コミュニティFMにおいても同様に、リスナーからのツイートを積極的に紹介する番組も見られるようになった。その一方、番組側からの Twitter による情報発信は伸び悩んでいる。これは、放送中に1人が担当の放送業務がいくつもあることが原因と考えられる。そこで本研究では、番組と連動した情報を手軽に Twitter へ投稿できるようにしたテキスト入力システムを開発した。放送開始前に、番組中に投稿するテキストをあらかじめ用意しておくだけでなく、投稿時には、タップするだけで多様な内容のテキストが投稿できる。本稿では、このシステムをコミュニティFMのパーソナリティの方の協力を得て、放送中の現場で試用してもらった結果について紹介する。

1 はじめに

コミュニティFMでは、電波だけでなく Twitter も利用して、番組の内容や地域の情報を提供している。Twitter は制作者側とリスナーの気軽なコミュニケーションの場としても機能しており、番組内でリスナーからのツイートが読み上げられたりすることもある。一方で、コミュニティFMでは放送業務全般、すなわちトーク、機器操作、番組宛に届くメッセージの選別などを1人で行うことがある。たとえば、CMや音楽を流している間も、次に読む原稿の下読みをしたり、番組宛に届いたメッセージの整理をしたりと、番組と連動する情報を Twitter に投稿するのは難しい。そのため、Twitter への情報発信が番組開始時の1回のみという番組もある。これは、リスナーを番組に引き込む大きな機会を逃していると言える。このことから、効率的に Twitter へ情報発信ができるコミュニティFM向けのソリューションが必要と考えられる。

筆者らはこれまで、少ない操作ステップで状況にふさわしいテキストを Twitter へ投稿できるスマートフォン用アプリケーションを開発してきた [1] (図1)。本稿では、このシステムを用いて行った試用について述べる。コミュニティFMで番組を担当しているパーソナリティの方に協力を得て、システムを放送中に試用してもらった。

2 システムの設計と操作

まず、システムの全体像と簡単な操作方法について述べる。このシステムでは、Twitter へ投稿するテキストをひな形として登録することができる。そ



図 1. システムのスクリーンショット¹

れらは、使用する状況に合わせてカテゴライズし、アイコンとなる画像を付けて管理できる (図1左)。投稿するテキストリストを一覧表示したものが図1右である。登録した Twitter アカウントへ投稿する際は、表示されたテキスト一覧から投稿するテキストを選択する。投稿を確認するポップアップが表示され、そのまま投稿するか、修正して投稿するかを選択できるようになっている。

3 システムの試用

3.1 準備

放送中に Twitter へ投稿する予定のテキストを放送開始前に準備した。生放送の番組は時々刻々と状況が変化するが、展開はある程度定められてあるため、あらかじめテキストを用意しておくことができた。予定されている展開に合わせてテキストをシステムに登録し、投稿予定の時間帯ごとにカテゴリに分類した。分類の階層構造を、図2に示す。図3では、テキストを準備し終えた状態のシステムのスクリーンショットである。左が番組名によるカテゴライズ、中央は時間帯によるカテゴライズ、右が投稿

Copyright is held by the author(s).

* 公立はこだて未来大学大学院システム情報科学研究科

† 公立はこだて未来大学システム情報科学部

¹ 画像は <http://www.fmiruka.co.jp> より引用

予定として登録されたテキストである。

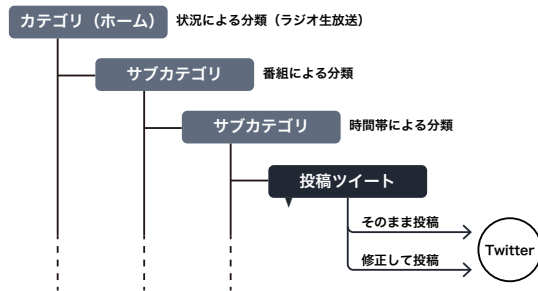


図 2. 試用時の階層構造



図 3. 試用時のテンプレート具体例

3.2 実施

試用は、午前7時から午前10時までの情報番組の放送中に行った。まず、放送開始前にパーソナリティの方に対してシステムの使用方を説明した。操作の練習を行った後、放送開始から午前8時までの1時間、実際にシステムを試用してもらった。放送終了後、ヒアリングを行った。

3.3 結果

実際につぶやかれた内容を、図4に示す。普段の放送では、番組開始の1回目のツイート（図4の最下段のツイート）のみであることが多いが、番組開始から1時間の間に、さらに2回の情報をツイートしてもらうことができた。合計3回のツイートは、いずれも音楽を流している間に投稿され、操作も15秒かからずに投稿を終えることができた。

試用後に行ったヒアリングでは、システムに対して以下のフィードバックを得ることができた。

- 修正機能があることで安心して使うことができる
- 番組内のコーナーや、放送中の音楽が紹介できそう

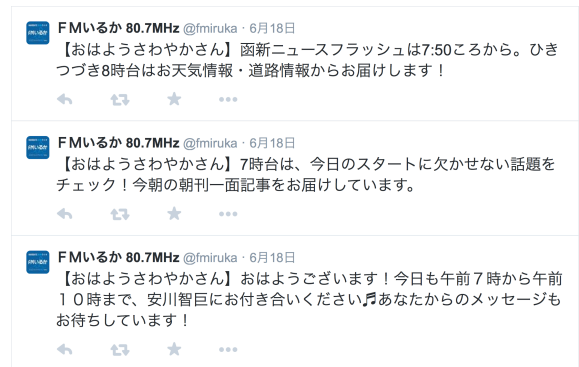


図 4. 実際に投稿された内容²

- 緊急時や災害時に、迅速な情報発信ができそう
- さらに、タブレット端末やパソコンで使えるようになるとより便利であるというフィードバックも得ることができた。

4 まとめと今後の課題

本稿では、筆者らが開発したシステムを用いて、コミュニティFMで行った試用について述べた。システムを試用した結果、普段は番組開始の1回だけのツイートしか行われない番組でも、システムを使うことでさらに多くの情報発信を行うことができた。このように、生放送を1人で行う状況でも、パーソナリティ自身から番組と連動した情報を少ない操作ステップで投稿できることを確認することができた。

今後は、タブレット端末やパソコンで使えるようにすることも検討していく予定である。また、さらなるテキスト入力の効率化を実現するために、綾塚らの「GhostTweet[2]」のような自動的なツイート生成の実現を目指す。それに向けて、コミュニティFMのアカウントで投稿されているツイートの構造解析、テキストを産出するための文章モデルを構築する予定である。

謝辞 本論において提案したシステムは、IPA2013年度末踏IT人材発掘・育成事業の支援を受けて開発しました。開発の指導をして下さった大阪大学の石黒浩教授に感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 鈴木孝宏, 角康之, 美馬義亮. スマートフォンを用いた行動記録を支援するテキスト入力システム. マルチメディア, 分散協調とモバイルシンポジウム 2014 論文集, 第 2014 巻, pp. 1378-1381, July 2014.
- [2] 綾塚祐二, 那和一成. GhostTweet: 短い文の入力のための新たなパラダイム. 情報処理学会研究報告. HCI, ヒューマンコンピュータインタラクション研究会報告, 2012(6):1-5, July 2012.

² <https://twitter.com/fmiruka> より引用